

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	2023年9月11日
【四半期会計期間】	第65期第1四半期（自 2023年5月1日 至 2023年7月31日）
【会社名】	株式会社共和工業所
【英訳名】	KYOWAKOGYOSYO CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山口 真輝
【本店の所在の場所】	石川県小松市工業団地一丁目57番地
【電話番号】	0761(21)0531
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室長兼管理部長 東川 保則
【最寄りの連絡場所】	石川県小松市工業団地一丁目57番地
【電話番号】	0761(21)0531
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室長兼管理部長 東川 保則
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第1四半期 連結累計期間	第65期 第1四半期 連結累計期間	第64期
会計期間	自2022年5月1日 至2022年7月31日	自2023年5月1日 至2023年7月31日	自2022年5月1日 至2023年4月30日
売上高 (千円)	3,204,219	3,027,122	13,213,880
経常利益 (千円)	379,378	405,345	1,102,678
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	225,156	923,589	1,092,206
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	334,543	439,979	1,258,489
純資産額 (千円)	13,533,062	14,788,038	14,456,765
総資産額 (千円)	16,074,647	17,446,828	17,139,298
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	165.83	680.29	804.45
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	84.2	84.8	84.3

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動については、当第1四半期連結会計期間において当社連結子会社であった共和機械(山東)有限公司が清算終了したことにより連結の範囲から除外し、連結子会社であった期間の損益計算書のみ連結しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類へ引き下げられ、経済活動の正常化が進み、緩やかな回復傾向が見られました。その一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化に起因する原油価格の高止まりや物価上昇など、先行き不透明感が強まっております。

主要取引先である建設機械業界においては、前期に引き続き需要が堅調に推移しております。このような環境下、当社グループは引き続き受注の拡大に努めるとともに、保有している生産能力を最大限に活用し、製品需要に対応してまいりました。

その結果、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の経営成績は、下記のとおりとなりました。

当第1四半期連結累計期間は、売上高30億27百万円（前年同期比5.5%減、1億77百万円減）、経常利益4億5百万円（前年同期比6.8%増、25百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益9億23百万円（前年同期比310.2%増、6億98百万円増）となりました。

売上高におきましては、販売数量が減少したことから前年同期と比較して減少いたしました。収益面では、原材料・エネルギー価格の上昇および例年以上の賃上げによる人件費等の増加がありましたが、コスト上昇に対応した販売価格の見直しを実施した結果、前年同期と比較し、各利益が増加いたしました。

主要な事業部門別の概況は以下のとおりであります。なお、当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は単一セグメントであるため、セグメントごとに記載しておらず、事業部門別に区分して記載しております。

「建設機械部門」

建設機械部門の売上高は、28億98百万円（前年同期比4.7%減、1億41百万円減）となりました。

「自動車関連部門」

自動車関連部門の売上高は、33百万円（前年同期比2.4%減、0百万円減）となりました。

「産業機械部門」

産業機械部門の売上高は、20百万円（前年同期比29.4%減、8百万円減）となりました。

「その他部門」

その他部門の売上高は、74百万円（前年同期比25.8%減、25百万円減）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ3億7百万円増加し、174億46百万円となりました。これは主に、現金及び預金が15億90百万円、電子記録債権が1億90百万円減少したものの、有価証券が14億99百万円、投資有価証券が5億5百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べ23百万円減少し、26億58百万円となりました。これは主に、固定負債その他が1億16百万円、流動負債その他が60百万円増加したものの、賞与引当金が1億8百万円、買掛金が56百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ3億31百万円増加し、147億88百万円となりました。これは主に、為替換算調整勘定が6億83百万円減少したものの、利益剰余金が8億14百万円、その他有価証券評価差額金が2億円増加したこと等によるものであります。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

- (4) 研究開発活動
該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,000,000
計	5,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年7月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年9月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,360,000	1,360,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	1,360,000	1,360,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2023年5月1日 ~ 2023年7月31日	-	1,360,000	-	592,000	-	464,241

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年4月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年7月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 2,300	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,355,500	13,555	-
単元未満株式	普通株式 2,200	-	1 単元（100株） 未満の株式
発行済株式総数	1,360,000	-	-
総株主の議決権	-	13,555	-

【自己株式等】

2023年7月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （%）
株式会社共和工業所	石川県小松市工業 団地一丁目57番地	2,300	-	2,300	0.17
計	-	2,300	-	2,300	0.17

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年5月1日から2023年7月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年5月1日から2023年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、かなで監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,377,801	4,787,798
受取手形及び売掛金	2,387,056	2,318,288
電子記録債権	1,243,663	1,052,856
有価証券	1,700,000	3,199,600
商品及び製品	318,404	268,381
仕掛品	205,874	200,700
原材料及び貯蔵品	130,081	157,916
その他	11,678	11,479
流動資産合計	12,374,561	11,997,021
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	836,654	821,899
機械装置及び運搬具(純額)	1,037,968	1,241,735
その他(純額)	550,244	540,652
有形固定資産合計	2,424,867	2,604,287
無形固定資産	8,314	7,219
投資その他の資産		
投資有価証券	1,877,946	2,383,036
関係会社株式	257,240	256,483
その他	196,368	198,779
投資その他の資産合計	2,331,555	2,838,299
固定資産合計	4,764,737	5,449,806
資産合計	17,139,298	17,446,828
負債の部		
流動負債		
買掛金	802,881	746,742
1年内返済予定の長期借入金	102,000	79,000
未払法人税等	142,722	122,104
賞与引当金	231,185	122,542
その他	688,961	749,878
流動負債合計	1,967,750	1,820,268
固定負債		
長期借入金	2,500	-
役員退職慰労引当金	300,532	300,458
退職給付に係る負債	284,945	294,277
その他	126,805	243,785
固定負債合計	714,782	838,521
負債合計	2,682,533	2,658,789

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	592,000	592,000
資本剰余金	464,241	464,241
利益剰余金	11,984,304	12,799,282
自己株式	9,665	9,760
株主資本合計	13,030,881	13,845,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	741,945	942,274
為替換算調整勘定	683,939	-
その他の包括利益累計額合計	1,425,884	942,274
純資産合計	14,456,765	14,788,038
負債純資産合計	17,139,298	17,446,828

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
売上高	3,204,219	3,027,122
売上原価	2,506,299	2,384,409
売上総利益	697,919	642,712
販売費及び一般管理費	360,067	283,712
営業利益	337,851	358,999
営業外収益		
受取利息	8,052	730
受取配当金	25,584	34,581
持分法による投資利益	2,058	-
その他	7,035	11,847
営業外収益合計	42,730	47,159
営業外費用		
支払利息	124	57
為替差損	1,080	-
持分法による投資損失	-	756
営業外費用合計	1,204	814
経常利益	379,378	405,345
特別利益		
関係会社清算益	-	667,831
特別利益合計	-	667,831
特別損失		
減損損失	18,975	-
特別損失合計	18,975	-
税金等調整前四半期純利益	360,402	1,073,177
法人税、住民税及び事業税	88,708	116,729
法人税等調整額	46,537	32,858
法人税等合計	135,246	149,588
四半期純利益	225,156	923,589
親会社株主に帰属する四半期純利益	225,156	923,589

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
四半期純利益	225,156	923,589
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	39,787	200,329
為替換算調整勘定	69,599	683,939
その他の包括利益合計	109,387	483,609
四半期包括利益	334,543	439,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	334,543	439,979
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

当第1四半期連結会計期間において、共和機械(山東)有限公司は清算終了したため、連結の範囲から除外しております。なお、清算終了までの損益計算書については連結しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

連結会計年度末日満期手形等

期末日満期手形、期末日確定日債権(手形と同条件で手形期日に現金決済する債権)及び期末日電子記録債権は、手形交換日及び振込期日をもって決済処理をしております。前連結会計年度末は休日のため次の期末日満期手形等が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年7月31日)
受取手形	11,912千円	-千円
売掛金	6,700	-
電子記録債権	75,309	-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年5月1日 至2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年5月1日 至2023年7月31日)
減価償却費	88,911千円	84,579千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自2022年5月1日 至2022年7月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月10日 取締役会	普通株式	135,770	100	2022年4月30日	2022年7月4日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自2023年5月1日 至2023年7月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月9日 取締役会	普通株式	108,611	80	2023年4月30日	2023年7月6日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは建設機械用ボルトの製造・販売並びにこれらの関連業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

事業部門別に分解した売上高は以下のとおりであります。

事業部門の名称	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
建設機械(千円)	3,039,826	2,898,168
自動車関連(千円)	34,309	33,483
産業機械(千円)	29,706	20,976
その他(千円)	100,376	74,493
合計	3,204,219	3,027,122

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年5月1日 至 2022年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年5月1日 至 2023年7月31日)
1株当たり四半期純利益	165円83銭	680円29銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	225,156	923,589
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	225,156	923,589
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,357	1,357

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

2023年6月9日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議いたしました。

- (1) 配当金の総額 108百万円
(2) 1株当たりの金額 80円
(3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2023年7月6日

(注) 2023年4月30日現在の株主名簿に記録された株主に対し、支払いを行いました。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年9月11日

株式会社共和工業所

取締役会 御中

かなで監査法人

東京都 中央区

指定社員
業務執行社員

公認会計士

杉田 昌則

指定社員
業務執行社員

公認会計士

高村 藤貴

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社共和工業所の2023年5月1日から2024年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年5月1日から2023年7月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年5月1日から2023年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社共和工業所及び連結子会社の2023年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。